



メディアレポート

【住宅トレンド】

民泊新法が閣議決定
本格化する民泊市場に
新たなビジネスチャンスが



【YKK APの新商品】

APW330 木目仕様
エクステリアラ アーチ用門扉
シャローネ 門扉/フェンス

【注目!! わが社の家づくり】

タナカホーム

地域と向き合い60年の実績
高断熱など常に新しい技術を探求

【特集】

札幌市が高断熱・高気密住宅で補助制度

【YKK AP NEWS】

「窓学」10周年記念イベントを開催

ドイツにYKK AP R&Dセンターを開設

メディアレポート

C O N T E N T S

JULY

- P01 住宅トレンド
本格化する民泊市場に新たなビジネスチャンスが
- P04 注目!! わが社の家づくり
タナカホーム
地域と向き合い60年の実績
高断熱など常に新しい技術を探求
- P06 新商品
APW330 木目仕様
エクスティアラ アーチ用門扉
シャローネ 門扉/フェンス エlegantデザイン
- P12 特集
札幌市が高断熱・高气密住宅で補助制度
2020年までに新築戸建てで100%U_A値0.36を目指す
- P14 YKK AP News
「窓学」10周年記念イベントを開催
ドイツにYKK AP R&Dセンターを開設
- P16 クローズアップ
住宅ストック循環支援事業が延長
第3回募集は9月7日まで
- P17 建築着工統計調査報告

文月
7月



七夕のとき、短冊に願い事や短歌を書いて飾る習慣にちなんで「文披月(ふみひらきづき)」と呼ばれ、それが転じて「文月(ふみづき)」となったという説があります。織姫星と彦星は、天の川をはさんで向かい合うように位置しています。天気が良ければ、七夕に向かい合う星を見ることができるかもしれません。

月	二十四節気	
文月	小暑	7/7 いよいよ暑さが本格的に。夏を乗り切るために、鰻やにんにくを食べてスタミナをつけましょう。
	大暑	7/23 暑さが盛りを迎えます。夏の風物詩である夏祭りや花火大会など、イベントが多数開催されます。

二十四節気は、太陽の高さが最も低くなる冬至と最も高くなる夏至、その間の春分、秋分の4つ(二至二分)を基準に、1年を24分割したもので、15日おきに訪れます。

民泊新法が閣議決定

本格化する民泊市場に 新たなビジネスチャンスが 空家・空室活用やリノベーションの新たな切り口に

民泊新法案が今年3月に閣議決定、国会で成立が目指され、早ければ2018年1月の施行が目指されている。新法により民泊市場の裾野は一気に広がる可能性が高い。

急拡大する民泊需要 宿泊外国人は300万人

今年3月、「住宅宿泊事業法案」（民泊新法）が閣議決定された。住宅地を含む全国で民泊を解禁する一方で、提供日数の上限を180日泊と制限した。また、住宅宿泊事業者については届出制度を、管理・仲介事業者については登録制度を新設する。早ければ2018年1月からの施行が目指されている。

近年、急速に注目を集めている「民泊」。住宅の一部や空き別荘、マンションなどの空家を活用して有料で宿泊サービスを提供する。

日本における民泊の予約件数で9割以上のシェアを占めているといわれるAirbnbによると、2016年時点での日本のリスティング（登録物件）件数は約4万8000件。これらに宿泊した訪日外国人旅行者は2015年の130万人から2016年には370万人を突破したという。

訪日外国人旅行者のニーズに加え、大都市部では宿泊需給がひっ迫していることもあり、民泊が急拡大しているのである。

こうしたなか、さまざまな課題が顕在化してきた。まず、違法民泊の問題。これまで提供されてきた民泊物件の多くは旅館業法の許可を得ていない違法営業と見られている。空室を旅行者に対して仲介する行為そのものは旅館業法の規制対象ではないものの、仲介サ

日本国内におけるAirbnbコミュニティの主なデータ(2016年)

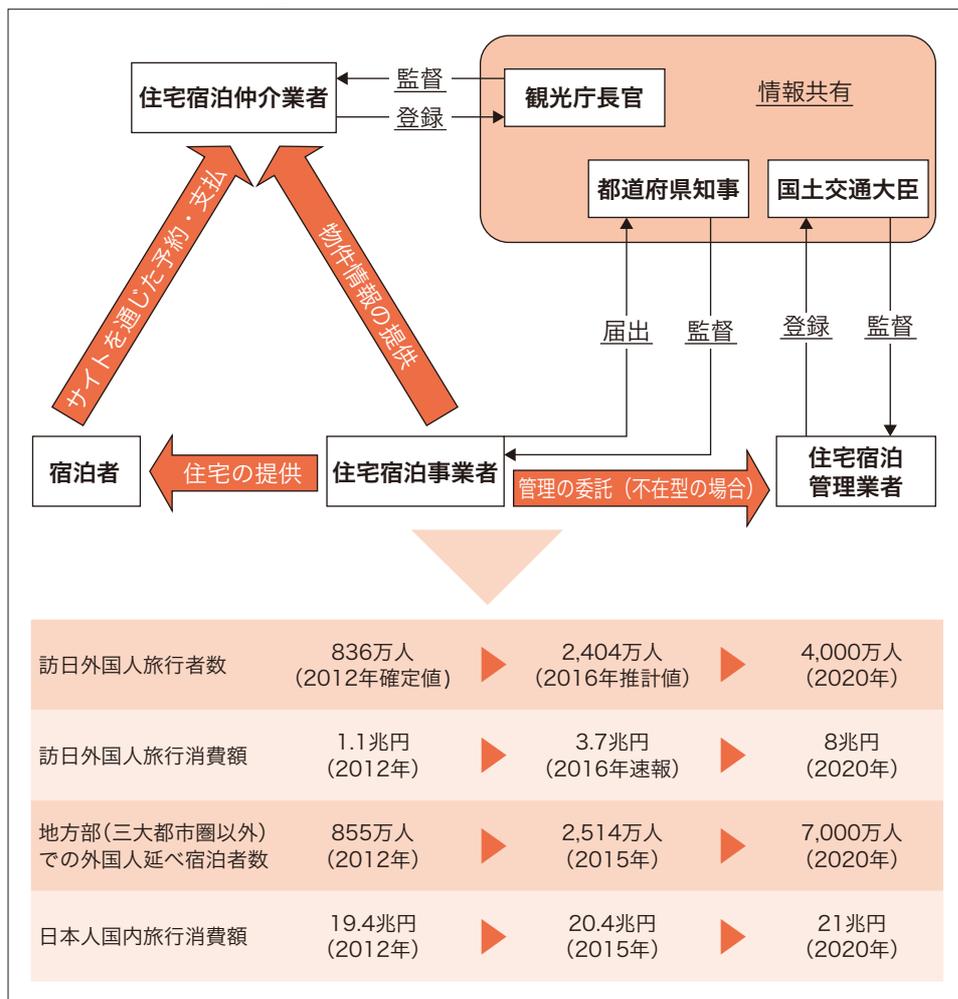
Airbnbコミュニティが 経済活動により創出した利益	4,061億円(前年比71.9%増)
経済効果	9,200億円(前年比76.7%増)
ホスティングによる年間収入額	100万4,830円
ホストの年間貸し出し回数	89泊
訪日外国人の宿泊人数	370万人以上(前年比184.6%増)
訪日外国人一人当たりの平均の宿泊日数	3.4泊
宿泊利用率の高い都道府県	1 大阪府 2 東京都 3 福岡県 4 奈良県 5 広島県 6 沖縄県 7 徳島県 8 群馬県 9 高知県 10 栃木県

イトなどを通じて反復継続して有料で部屋を提供する民泊は旅館業法の規制対象となる。つまり、営業許可をとらずに人を泊めてビジネスを行うと同法違反となるのだ。実際、2014年以降、違法民泊が出てきていた。

厚生労働省が2016年に民泊サイトに掲載されている全国の民泊物件1万5127件を対象に実態調査を行ったところ、営業許可を得ている民泊物件は16.5%しかなかった。

そのほか、公衆衛生や地域住民などのトラブルなども表面化、民泊サービスに対するルールづくりも求められていた。

民泊新法により健全な民泊サービスの普及を図る



住宅を宿泊施設として貸し出す 家主の存在・不在の2種

こうしたなか、国は合法民泊サービスの環境整備に乗り出し、厚生労働省と観光庁が共同で「民泊サービス」のあり方に関する検討会を発足、そのルールづくりに取り組んだ。

この検討会が2016年7月にまとめた最終報告書案が「民泊新法」のベースとなっている。従来の旅館

簡易宿所、民泊、特区民泊の違い

	旅館業法 簡易宿泊所	住宅宿泊事業法		特区民泊
		家主居住型	家主不在型	
行政への手続者	事業者	家主居住型	管理者	事業者
行政への申告	許可	届出	登録	許可
営業日数上限	なし	180日	180日	なし
宿泊日数制限	なし	なし	なし	2泊3日以上
苦情受付者	事業者	家主 (事業者)	住宅宿泊 管理者	事業者
フロント設置	原則なし	なし	なし	なし
居室の床面積	3.3㎡以上*	なし	なし	25㎡以上
行政の立ち入り検査	あり	あり	あり	条例で制定
宿泊者名簿	要	要	要	要
標識の掲示	要	要	要	要
目的	投資収益	文化交流	休眠地活用	投資収益

*一人当たり3.3㎡に収容定員数を乗じた数

業法で定めるホテル、旅館、簡易宿泊所、下宿という4つの形態にあてはまらない「民泊」を規定する。ここで対象になるのはホテルや旅館などの宿泊施設ではなく、「既存の住宅を活用した宿泊提供」つまり「住宅」である。この住宅を、一定の要件の範囲内で、有償かつ反復継続して、1日単位で利用者に貸出すことを「民泊」と位置づけている。

そして、この住宅に家主が住宅内に暮らしながら空室などを宿泊施設として貸し出す「家主居住型（ホー

ムステイ）民泊」と、家主が住んでいない状態の「家主不在型民泊」の2つのタイプを設定し、このタイプ別に住宅提供者、管理者、仲介事業者に対して規制を課す仕組みを構築している。例えば、「家主不在型」は、近隣住民とのトラブルや防犯などの面から、民泊の運営代行業務を展開する住宅宿泊管理業者に運営や管理を委託することを求めている。

民泊を行う住宅宿泊事業者については、法で定める要件を満たす旨を都道府県知事（保健所設置市または

その首長)に届けることを義務づける。この届出により、旅館業法の許可を得ることなく民泊サービスを提供できるようになる。

住宅宿泊事業者に求められる一定の要件とは、「年間提供日数」、「宿泊人数」、「衛生確保」、「非常用照明の設置・避難経路の表示」、「外国人観光客向けの施設案内・交通案内」、「騒音防止のための説明」、「苦情への対応」、「宿泊者名簿の作成・備え付け」などだ。例えば、年間提供日数は上限180日泊以下とされている。

活発化する代行事業者 宿泊者へのサービス、民泊リノベの提案も

民泊という新たなマーケットで、大きなビジネスチャンスが広がってきている。

新たなサービスとして注目されているのが運用代行事業である。特に家主不在型の民泊の場合、運営や管理を委託する運用代行事業者が非常に重要な役割を担うことになる。実際、すでに運用代行事業を展開する企業はサービスの付加価値向上に向けて新たなビジネスモデルを模索し始めている。

それでは民泊運用代行事業者とは、どのような事業を行っているのだろうか。民泊の運営には、民泊物件の選定、リフォームやインテリアの飾りつけ、仲介サイトで紹介する民泊物件の写真撮影、仲介サイトでのゲストとの交渉、部屋の清掃、アメニティなどの拡充、鍵の受領、ゲストを部屋まで案内するサービス、注意事項を含めたウエルカムガイドの作成、観光案内ガイドなどゲストのリクエストへの対応など、非常に幅広く、多種に及ぶ業務が求められる。

民泊運用代行事業者は、こうしたサービスを一括して請け負っている。つまり、民泊の運営・管理を委託するオーナーにとってはこの民泊運営代行事業者のノ

ウハウが事業成功を左右するといってもいい。

ここ数年で民泊運営代行事業者が急増、現在、国内には120社以上の事業者が存在すると言われていいる。競争が激化するなか、他社との差別化を図る動きも活発化している。

例えば、オーナーにとっての高収益化を目的としたサービスの充実を図る動きがある。運営の効率化を図るシステムを自社で開発し、リステイング情報からエリアごとの商圏分析、エリアマーケティングなどを自動で行う事業者もいる。民泊物件の選定の段階で指定しエリアの民泊運営の収益性を見極めたうえで、分譲、賃貸、戸建て、簡易宿泊所などを問わず民泊許可物件をオーナーに紹介することができる。

また、複数の民泊物件を運用するオーナー向けに、収益状況や稼働率などを一元管理するシステムを開発し、予約状況や稼働率の推移、売上比率などをオーナーが簡単に確認できるサービスを提供している事業者もいる。

民泊運営代行を委託するオーナーは、複数の住宅を持つている人や個人投資家などの個人、不動産会社や不動産管理会社などの法人がいるが、多くは投資目的、高収益というニーズをいかに満たすか、そこに運営事業者のノウハウがある。

今後、空家・空室の活用の一つとして、また、不動産オーナーに対する提案の一つとして民泊が注目されるなか、不動産オーナーとつながる住宅事業者にとって新たなビジネス拡大につながる可能性は高い。

一方で、宿泊者の満足度を高めるサービスも重要だ。外国人旅行者にとって言葉は大きな壁であるが、運営代行事業者がコールセンターを運営し、24時間対応を取っているところもある。

また、民泊新法ではフロント設置は義務づけられていないが、民泊施設滞在をサポートするコンシェルジ

ュ機能を付与したタブレットを開発し、チェックイン、フロント対応、観光情報の案内、電車の乗換検索機能などを提供している事業者もいる。

外国人旅行者の満足度向上という視点からは、宿泊施設そのものの魅力向上も重要なキーワードであろう。民泊の利用者は通常のホテル宿泊の旅行者とは好みが大きく異なり、ありのままの生活を求めているユーザーが多いという。こうした旅行者の満足度を高めるため、リノベーションは重要なポイントだ。民泊物件のオーナーに向けてリノベーション・内装コーディネート提案する運営代行事業者もいる。提携する施工会社や建築士、職人などと連携し、最適な内装やコンセプトを提案、施工するものである。

リフォーム・リノベーションは住宅事業者にとって今後、拡大する新たな市場の一つであるが、その切り口の一つとして民泊が浮上してきそうだ。

新法がインパクト

住宅産業にも新ビジネスの可能性

民泊新法の施行で、民泊をめぐる市場は次のステージを迎え、さらに広がる可能性がある。

住宅事業者やデベロッパーは、これまで土地オーナーに対して賃貸住宅・マンション経営をはじめ、駐車場、店舗などへの借地など土地活用を提案してきた。また、古くなった物件については建て替えなどのほかコンバージョンなどによる活用も行われている。今後、こうした提案のなかに「民泊」が重要なキーワードの一つとして入ってくることは間違いない。

さらに空家・空室が増えるなか、これらをどう活用していくかは地域の住宅産業にとって大きな課題といえる。民泊はこうした課題に対する一つの答えにもなりえる。

地域と向き合い60年の実績 高断熱など常に新しい技術を探求

宮崎県都城市で、60年の長きにわたり地域と向き合った家づくりを続けている。
HEAT20のG2グレードの断熱や制震装置の標準化など、
差別化を狙いに高性能な住まいにこだわり続ける。

——高性能な家づくりが大きな特徴ですね。

田中社長 先代の父が大工で私は二代目。昭和57年に社長となりましたが、これまで注文住宅だけで30数年間続けてきました。

差別化を狙いに、27年前から高断熱住宅に取り組み、これまで相当な数の実績を積んできました。現在、湿式外断熱工法「アライズハイブリッド」を採用していますが、急にこの工法に至ったのではなく、長い歴史があります。

田中専務 「アライズハイブリッド」は、100ミリの充填断熱に40ミリの外断熱をプラスし、外断熱に直接塗り壁材を塗って仕上げます。この仕様でU^A値は0・43〜0・46程度で、HEAT20のG2グレードに相当します。

海外ではボピュラーな工法なのですが、防火層、通気層がないことから、自社で防火認定や型式認定を取得し、他社がなかなか真似できない差別化を可能とする技術を用意することができました。

太陽光発電を載せるだけで構造部のコストアップなしにZEH基準をクリアできる高い断熱性、外壁材の重さの負担がなく通常の外断熱のような外壁材のずり落ちの心配がないなどがメリットです。お客様にとっては、維持管理費が軽減できます。

窓は3年前にAPW310からAPW330に切り替えました。断熱性を高めるうえで窓は非常に重要です。窓を小さくすることで対応することも可能ですが、できる限り窓は大きく取りたいと考えていますので、樹脂窓を標準としました。

高断熱仕様は差別化が大きな目的ですが、居住

者の健康という側面も見逃せません。地域的に南九州は断熱に対する関心が高まり高くありません。一方で、ヒートショックなどの疾病で亡くなる方は多い。

近年、ZEHなど高い省エネ性能が求められています。私たちがこれまで取り組んできたことと、今お客様が求められていることが合致するようになってきました。

——湿式外断熱工法以外にも、さまざまな技術で差別化を打ち出されています。

田中社長 住友ゴム工業の制震ユニット「ミライエ」を採用しています。実は、昨年の熊本地震の4カ月前に全棟標準採用を始めました。実際、地震による被害はほとんどなく、非常に高い信頼をいただいています。

田中専務 熊本地震は震度7が2回というこれまでになかった地震であり、1回目はよくても2回目にはどうなのかという不安の声があります。「ミライエ」はNHKで特番を組まれるくらい有効であったということで、かなりの安心をいただいているのではないかと思います。

一方、輻射冷暖房システム「クール暖」は北海道の企業が開発したもので、開発段階から弊社が夏の実証などを行いました。輻射式ですから、鍾乳洞のなかに体を預けるような涼しさで、自然に夏を過ごすことができます。

樹脂製のパネルを6〜7枚設置してヒートポンプで動かしますが、室外機が一つで良いことがポイントです。放射量は高いにもかかわらずエネルギーロスが非常に少ないという省エネ性もお客様

の満足度につながっています。

ご予算の都合もありますから、標準推奨という形でご提案していますが、約6割のお客様にご採用いただいています。

——しっかりとした技術に基づく差別化を進めてきたのですね。

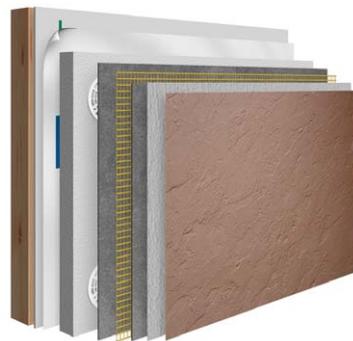
田中専務 満足することなく探究心をもって続けてきたことが、お客様の「タナカはいいよね」という言葉につながっているのだと思います。これまでの伝統と実績を大切にして常に新しい技術を磨くことに時間を割いています。

もう一つ、タナカホームの強みは実績です。先代から数えると、あと2年で60年となります。この期間、地域の皆さんと向き合って仕事を続けてきました。今、年間80棟程度を建設していますが、地域の期待を裏切らなかったからこそ地域の方が返して下さる。この関係を続けてきたことが一番の強みだと思っています。

また、これらの技術にもかかわらず非常に求めやすい価格で、高いコストパフォーマンスをもっていることも大きな特徴です。価格は坪50万円台後半です。総合展示場に出店せず、少数精鋭でやっている。そういうところに経費をかけずに、お客様がお求めやすい値段で提供していこうというスタンスですから、競争をしてもかなり優位性があると思っています。

——今後の方向性を教えてください。

田中社長 これまで100、200、300棟と、棟数を追いかける経営はしていません。こうした



湿式外断熱工法「アライズハイブリッド」の構成 制震ユニット「ミライエ」

伝統と実績を大切に取り組んできた家づくり。常に新しい技術を追求してきた姿勢が、高性能で求めやすいタナカホームの家として結実している

方向性を変えるつもりはありません。ここ数年で私はリタイアする考えで、これからの時代は息子をはじめ若い人たちが背負っていきます。常に目立つ存在を維持することは非常に難しい。しかし、チャレンジを続け、お客様のための家づくりを考えていけば、次の世代も続けられると思います。

田中専務 今、私たちがお客様に提供しているH E A T 20のG2というレベルは2030年のスペックです。つまり12年先の家をご提供できているのです。この12年の間にさらに何ができるかが重要です。高断熱については、パッシブハウスのレベルぐらいを普通のご家庭に提供できるようにしたいですね。

YKK APがAPW430を出した時に、私はすごく嬉しかった。当時、あと15年くらいしなければ出てこない商品だと思っていましたから。時代の流れは相当速い。これからも常に地域に寄り添って、地域に助けってもらいながら継続できる経営をしていきたいと考えています。



専務取締役
田中 誉宗



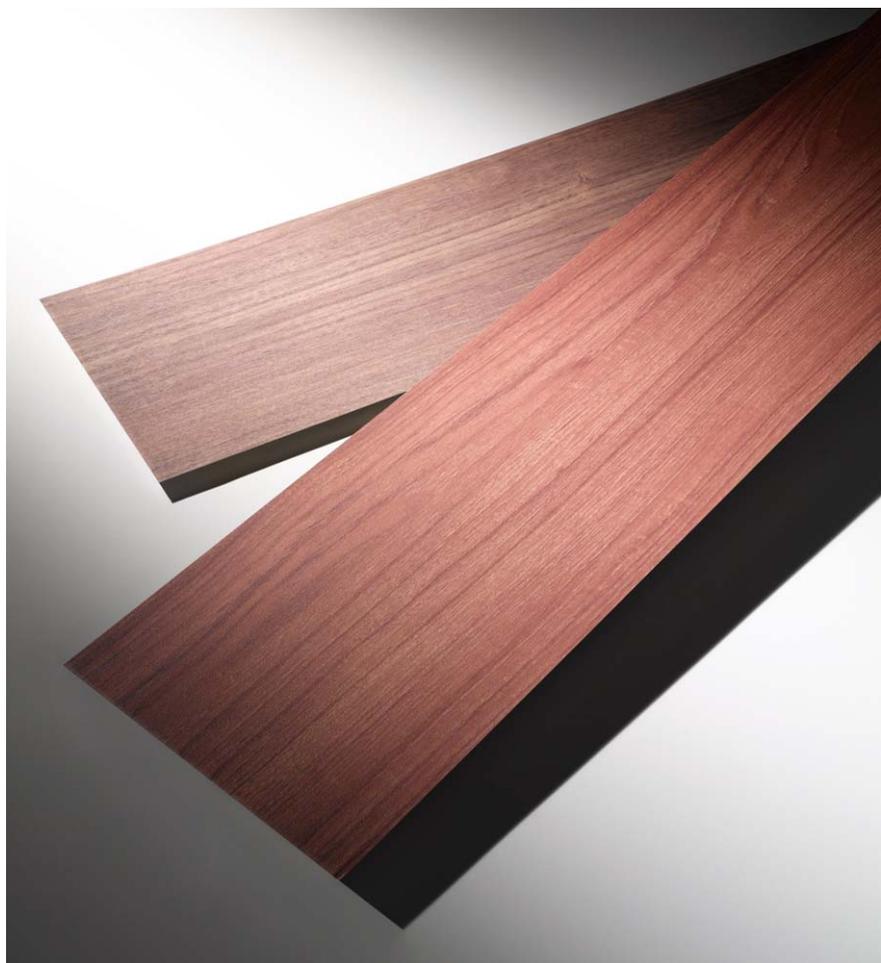
代表取締役社長
田中 靖彦

〒885-0042
宮崎県都城市上長飯町67-1
TEL. 0986-23-0308
FAX. 0986-23-7715
<http://tanakahome.jp/>

高性能樹脂窓 APW330 木目仕様

YKK AP
の
新商品

高性能樹脂窓APW330に、
業界で初めて木目柄の高耐候性ラミネートを外部側に施した「木目仕様」を設定しました。



高性能樹脂窓「APW330」は、2009年の発売以降、その高い断熱性で日本の住宅に“断熱と健康”を届けてきました。今年7月、新たに“デザイン”要素を加えた商品のグレードアップを行い、全国発売します。

近年、住宅の外観の特長として木目柄の玄関ドアやエクステリア商品の採用が増えています。YKK APのこれら商品の販売構成比では、実に8割以上を木目柄が占めるようになっています。

その一方で、窓については外観木目柄の設定はなく、天然木商品には耐候性やメンテナンス面の不安感などもあり、金属系やホワイト系の色が中心です。

今回、高性能樹脂窓「APW330」に木目柄の高耐候性ラミネートを外部側に施した「木目仕様」を発売します。これは業界初※です。「APW330」木目仕様により、窓、玄関、エクステリアと住宅外観のトータルコーディネートが可能になります。

※自社調べ／国内窓・サッシメーカーの樹脂窓において（2017年2月23日現在）

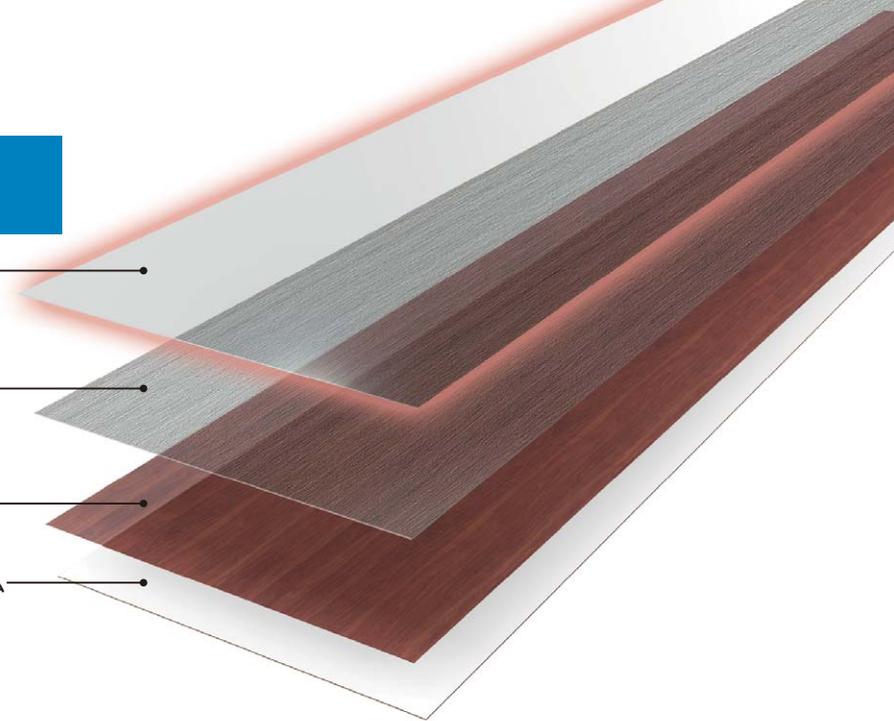
商品概要

商品名	「APW330」木目仕様
構造	樹脂フレーム+Low-E複層ガラス
バリエーション	【アングル付枠】 【アングル無枠】 引違い窓、引違いテラス戸、たてすべり出し窓、すべり出し窓、片上げ下げ窓、FIX窓、勝手口ドア、テラスドア
オプション	固定網戸・スライド網戸(木目色)、窓額縁
基本性能	断熱性H-5、耐風圧性S-3、気密性A-4、水密性W-4、遮音性等級3
保証期間	「APW330」標準仕様となる10年保証。シリアルナンバーによる一窓毎のデータ管理で万が一のときでもスピーディーなアフターサービスが可能
発売地域	全国
発売日	2017年7月10日

●独自の高耐候性ラミネートを樹脂窓用に開発

雨風や紫外線に当たる屋外での使用に適した、色褪せが少なく、傷がつきにくいシートを採用しました。4層構造のシートと樹脂形材を組み合わせることで、太陽光の反射を高めて窓本体の温度上昇も低減します。強さと美しさをあわせ持つ4層構造です。

EBコーティング層
木調の凹凸感をつくる
オレフィンフィルム
木目柄印刷層
オレフィンベースフィルム



●表情豊かな外観を彩る 2色の木目調カラー



チーク色



ブラックウォールナット色

●木目の味わいを楽しむ

木質感のある窓カラーで、外観演出がさらに広がり、高級感のある表情豊かな住宅外観を彩ります。ファサードは家の顔。窓は印象的な住宅外観を演出する大切な要素の一つです。木目仕様の窓なら、のびやかな広がりや高級感のある、ワンランク上の個性的なファサードを表現できます。また、玄関やエクステリアの木目仕様とあわせてコーディネートすることで、住まい全体のまとまりを演出します。



片上げ下げ窓



単窓

面格子 ※面格子はチーク、ウォールナットともに、ブラウン(B1)となります。



たて格子



井桁格子

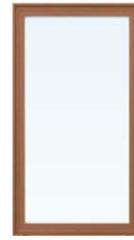


ラチス格子



横格子

FIX窓



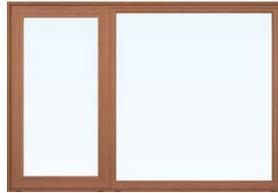
たてすべり出し窓(グレモンハンドル仕様・オペレーターハンドル仕様)



単窓



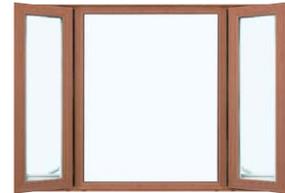
段窓



2連窓



3連窓

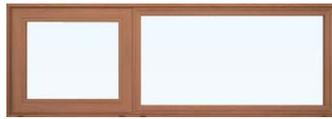


ウインドキャッチ連窓

すべり出し窓(グレモンハンドル仕様・オペレーターハンドル仕様)



単窓



2連窓



3連窓



段窓

高所用すべり出し窓



手動



電動

引違い窓



クレセント仕様

シャッター付
※シャッター付はチーク、ウォールナットともに、ブラウン(B1)となります。

面格子 ※面格子はチーク、ウォールナットともに、ブラウン(B1)となります。



たて格子



井桁格子



ラチス格子



横格子

引違いテラス戸



クレセント仕様

シャッター付
※シャッター付はチーク、ウォールナットともに、ブラウン(B1)となります。

テラスドア



勝手口ドア



今回発売するAPW330木目仕様は業界で初めて外観に木目柄のラミネート加工をした商品になります。窓は雨や日差しにさらされるものであり、そのような環境でも耐えられるラミネートシートを樹脂窓用に開発することが出来、発売につなげることが出来ました。デザインは細部までこだわり木目柄の縦ラインと横ラインが合うようになっているので、ぜひ実物をご確認ください。住宅の外観は多様化しており、木目仕様を追加することで提案の可能性を広げます。性能に加えてデザイン性を高めてパワーアップしたAPW330を今後とも宜しくお願いいたします。

住宅商品企画部 窓商品企画グループ 樹脂窓商品企画室

沢井 千尋

エクスティアラ アーチ用門扉

YKK AP
の
新商品

住宅エントランス空間に設けるアーチの軒下まで高さいっばいに納まる「XTIARA(エクスティアラ)」アーチ用門扉を発売しました。

アーチ屋根や壁との一体感を醸成し、重厚な趣きが感じられる外構シーンを演出します。



YKK APは、エクスティアラへの関心の高まりとともに顕在化した「家の顔となるエントランスは格好良く、上質な空間としたい」、「防犯面からしっかり囲いたい」などのニーズを受け、外構商品の最高級シリーズとして「XTIARA(エクスティアラ)」シリーズを展開しています。

高級物件へのトータルコーディネート提案をさらに強化するため、このたび「エクスティアラ」アーチと組み合わせる「エクスティアラ」アーチ用門扉をラインアップしました。

●外構の2つのニーズに対応したデザインラインアップ

「内部の気配がわかり、外からの視線が届くことで防犯性を高めたい」というニーズと、「外からの視線を完全に遮断し、プライバシーを守りたい」という2つのニーズに対応したデザインをラインアップしました。



<H4型>ランダム横格子デザイン

スリットを配することにより、内部の気配がうかがえるランダム横格子デザインです。繊細かつ上質な印象で、ナチュラルテイストや和モダンの外構におすすめです。

カラー:キャラメルチーク、ショコラウォールナット



<H5型>プレーンデザイン

門内のプライバシーを強固に守った完全目隠しのプレーンデザイン。面の際立つフラッシュパネルが重厚感を演出します。

カラー:カームブラック、プラチナステン、キャラメルチーク、ショコラウォールナット

●細部へのこだわり

アーチとの一体感、重厚感を実現するため、細部にまでこだわっています。上部横方向と両端の縦方向にすき間隠し材を標準設定し、細部まですき間のない重厚感を表現しました。

また、上部の梁と扉本体が上下に動くことで、扉下部のすき間を30～70cmの間で調整が可能です。床面の不陸にあわせつつ、扉下部のすき間を最小限にできる構造です。

●防犯性と利便性を確保

アーチ屋根と門扉のすき間を最小限とすることで、門扉上部からの浸入を抑制します。

また、高い防犯性と利便性で好評の「ピタットKeyシステム電気錠」にも対応しています。スマートドアと同一キー化を実現し、玄関ドアと門扉を一つの鍵で簡単に施解錠ができます。



2015年度に門扉用アーチ「エクスティアラ」アーチを発売して以降、2016年度はシャッター付のカーポート「エクスティアラ」カーポートと高級物件に対応する外構商品シリーズ「エクスティアラ」シリーズの拡充を図って参りました。2017年度は、アーチの軒下まで高さいっばいに納まることで、アーチ屋根や壁との一体感を醸成し、重厚な趣きが感じられる「エクスティアラ」アーチ用門扉を発売しました。構造は自立式となっているため、「エクスティアラ」アーチとの組み合わせ以外にもRC造の門構えなどのプランにもご使用いただけます。

「エクスティアラ」アーチ用門扉が加わり、更に商品力を強化した「エクスティアラ」シリーズのご提案を是非とも宜しく願います。

エクスティアラ商品企画部 ガーデンエクスティアラ商品企画室

升田 優太

シャローネ 門扉/フェンス エレガントデザイン

YKK AP
の
新商品

アルミ鋳物ならではの味わい深い質感を表現した外構商品シリーズ「SHALONE(シャローネ)」の門扉/フェンスのラインアップを拡充し、プチ・リュクス※でエレガントなデザインを追加しました。

※リュクスとは、豪華、優雅、上品を意味します。



昨今、住宅外観において洋風の住宅スタイルが復調傾向にあります。こうした中でYKK APでは、アルミ鋳物外構商品シリーズ「SHALONE(シャローネ)」の門扉/フェンスのラインアップを拡充し、昨年発売したシンプルデザインに加えて、エレガントデザインを追加しました。

アルミ鋳物ならではの質感や繊細さを活かし、まるでロートアイアンのような洗練されたディテールを再現。完成度の高いエントランス空間の演出に寄与します。

従来、こうしたこだわりのデザインの要望に対しては、現場ごとにオリジナル品を作成し対応していました。対して、「シャローネ」エレガントデザインでは、デザイン性や質感を変えずに、規格品ならではの価格でご活用いただけ、より短い納期にも対応できます。

また、玄関ドアも含めたエントランス空間全体でのトータルコーディネートも可能です。玄関ドア「ヴェナート」(非防火・防火)の2017年新デザインには、アルミ鋳物を使った洋風デザインのを多数揃えました。

シャローネ 門扉/フェンス(エレガントデザイン)

- 門扉には中高級グレード3デザインと普及グレード2デザインの5デザインを追加
- フェンスには門扉をより引き立て、連続性を意識した4デザインを追加
- 門扉/フェンスともに上質感を引き立てイメージの幅を広げる5色を設定
- 玄関ドアも含めたエントランス全体でトータルコーディネート可能

●門扉には中高級グレード3デザインと普及グレード2デザインを追加



EBO1型
(リボン)



EBO2型
(クラウン)



EBO3型
(剣先)



ECO1型
(唐草)



ECO2型
(ラチス)

洗練されたディテールと、伸びやかな曲線や伝統的な装飾が気品と風格を演出し、住宅外観に上質な印象を与えます。

重厚な装飾を施し、手仕上げの風合いを再現した中高級グレードの3デザインと、可愛らしくゆったりとした装飾を施した普及グレード2デザインをラインアップしました。

●フェンスには門扉をより引き立て、連続性を意識した4デザインを追加



ES08型 (Rトップ)



ES09型 (アーチ)



ES10型 (剣先)



ES11型 (ラチス)

シャローネ 門扉(エレガントデザイン)の特長的な要素を取り入れた、4デザインのフェンスを新たに設定しました。門扉とフェンスのデザインを統一してコーディネート可能です。

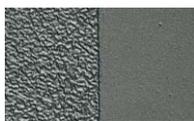
●門扉/フェンスともに上質感を引き立て、イメージの幅を広げる5色を設定



カームブラック (B7)



ブラチナステン (H2)



グラングレイ (OA)



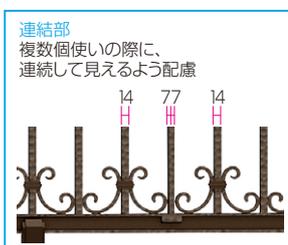
ホワイト (YW)



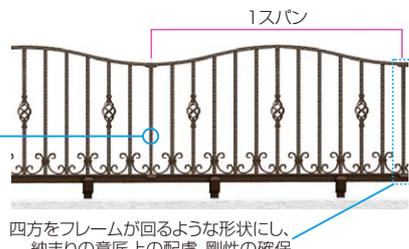
アイアンブラウン (5T)

定番のブラックを始め、ブラウン、グレイ、ステン、ホワイトの5色を用意。高級感のある色調により、統一感のあるシックな住宅外観の演出に寄与します。

●フェンスを連結しても美しい納まりを実現



連結部
複数個使いの際に、
連結して見えるよう配慮



四方をフレームが回るような形状にし、
納まりの意匠上の配慮、剛性の確保

フェンスには、連続性を意識したデザインを採用。複数個を連結して使用しても、連結部で流れが途切れない美しい納まりを実現できます。

●「シャローネ」シリーズと調和する玄関ドアも



W16デザイン



W17デザイン



U08デザイン



U09デザイン

玄関ドア「ヴェナート」の2017年新デザインには、大採光ガラスにアルミ鋳物をあしらったデザインを追加。「シャローネ」シリーズと合わせて使用することで、エントランス空間全体を統一してコーディネートできます。



「シャローネ」シリーズは、従来アイテム毎に別々だった鋳物商品の一つのシリーズにラインアップすることで、分かりやすく選択しやすい商品体系を目指し、美しく統一された完成度の高いエントランス空間を演出することができます。また、個としても美しいデザインとして、2016年4月に発売したシンプルデザインの門扉やフェンスは、鋳物の繊細さを活かしたデザインが、お客様に高評価をいただいております。今回新しく追加したエレガントデザインも含めて、住宅におけるエクステリアの幅広いご提案を是非ともよろしくお願いいたします。

エクステリア商品企画部 ガーデンエクステリア商品企画室

田中 菜々



札幌市が高断熱・高気密住宅で補助制度

高断熱・高気密住宅を5等級で独自認定 30万～200万円の補助金制度も展開

2020年までに新築戸建てで100%U_A値0.36を目指す

札幌市が展開する、全国的に見てもレベルが高い高断熱・高気密住宅への支援制度「札幌版次世代住宅補助制度」が注目を集めている。U_A値、一次エネルギー消費量、C値により5等級に分類して高性能な住宅を認定するとともに、等級ごとに30万から200万円の補助を行う。

札幌市ではセミナーや総合展示場などで市民や住宅供給者に向けて幅広く周知活動を行っている。

**高断熱・高気密住宅の普及により
2030年までに46万トンのCO₂を削減**

今、高断熱・高気密住宅に対してさまざまな公的支援制度が用意されているが、全国的にみて非常に高いレベルの性能の実現を後押しし、地域の独自性を打ち出しているという点でほかには例がない制度が、札幌市が平成24年度から運用をしている「札幌版次世代住宅認定制度」である。

環境問題への先進的な取り組みを進める札幌市では、積雪寒冷地という地域特性に応じた温暖化対策を推進することを目的に「札幌版次世代住宅基準」という独自の高断熱・高気密住宅の基準を定めている。この基準をクリアした住宅を新築する市民を支援するために補助制度を実施している。

札幌市は本州に比べて暖房エネルギー使用量が約5倍となっており、「札幌版次世代住宅」の普及を通じて、家庭における暖房エネルギー使用量を削減、2030年までに46万トンのCO₂の排出量削減を目指している。

5つの等級で新築戸建て住宅を認定 等級ごとに補助金額を設定し支援

「札幌版次世代住宅基準」は外皮平均熱貫流率(U_A値)と一次エネルギー消費量、隙間相当面積(C値)という3つの指標により、新築住宅、改修住宅それぞれに等級を設定している。

新築住宅はトップランナー、ハイレベル、スタンダードレベル、ベーシックレベル、ミニマムレベルという5段階の等級が設定され、トップランナーはU_A値0.18以下、C値0.5以下などとなっている。

一方、改修住宅はハイレベル、スタンダードレベル、ベーシックレベルの3段階で、U_A値と一次エネルギー消費量は新築住宅と同等だ。

札幌版次世代住宅基準(新築住宅)

等級	U _A 値 (W/m ² ・K)	一次エネルギー消費量		C値 (cm ² /m)
		全体	暖房+換気※	
トップランナー	0.18以下	等級5	35%以下	0.5以下
ハイレベル	0.22以下		45%以下	
スタンダードレベル	0.28以下		60%以下	1.0以下
ベーシックレベル	0.36以下		75%以下	
ミニマムレベル	0.46以下		90%以下	
		等級4		1.0以下

※基準一次エネ(暖房+換気)に対する設計一次エネ(暖房+換気)の割合

戸建て住宅、共同住宅の建築主は、この基準をクリアすることにより「札幌版次世代住宅」としての認定を受けることができ、認定された住宅は「認定証」と「性能表示ラベル」が交付される。

そしてこの認定住宅のうち、新築戸建て住宅を対象とした補助制度があり、補助金は、トップランナーが200万円/件、ハイレベルが150万円/件、スタンダードレベルが80万円/件、ベーシックレベルが30万円/件だ。

改修住宅は補助制度の対象とはならないが、別途、「札幌市住宅エコリフォーム補助制度」を実施している。

札幌市住宅エコリフォーム補助制度 対象工事

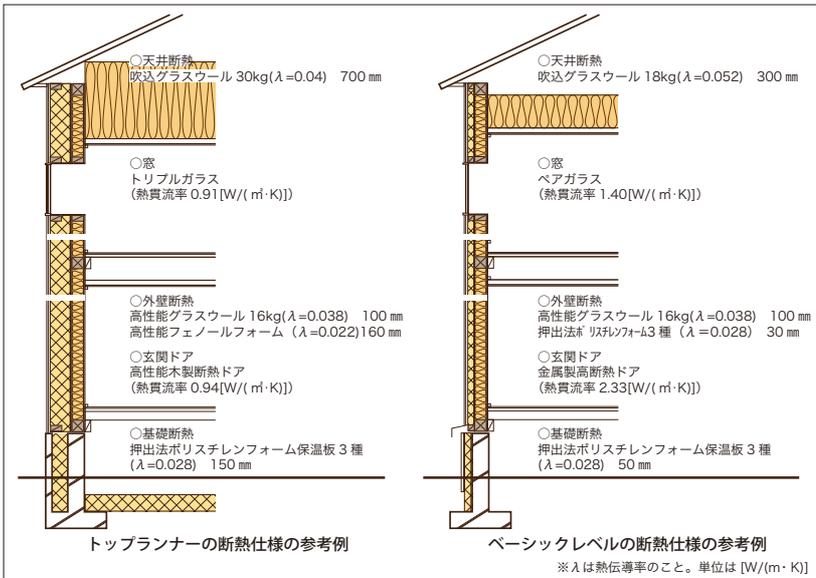
バリアフリー改修工事

- ①浴室の全面改良
- ②便所の改良・増設
- ③階段の改良
- ④段差の解消
- ⑤廊下の拡幅
- ⑥手すりの設置
- ⑦出入口の戸の改良
- ⑧玄関前スロープ設置

省エネ改修工事

- ⑨窓の断熱改修
- ⑩断熱改修工事
 - ・床全体の断熱改修
 - ・屋根又は天井全体の断熱改修
 - ・外壁全体の断熱改修

「札幌版次世代住宅」の等級の断熱仕様の例



この制度は平成22年度からスタートしたもので、一定の省エネルギー・バリアフリー改修工事に対して、その費用の一部を補助する。省エネ改修は、窓の断熱改修や床、天井、壁の断熱改修などが対象。また、バリアフリー改修は、廊下の拡幅、段差解消、手すりの設置などが対象だ。

こうしたリフォームに対し、総工費の10%以内かつ戸当たり50万円を上限に補助を行う。

**新築はベーシックからスタンダードへ
今後はストックの性能向上が鍵に**

札幌市は積雪寒冷地であることから、CO₂削減には、

「札幌版次世代住宅」の性能表示ラベルと認定証



トップランナーレベル



ハイレベル～
ベーシックレベル



家庭用エネルギーの削減が大きな意味を持つ。

こうしたことから札幌市では、平成32年度までに新築戸建て住宅の100%をベーシックレベル以上、平成34年度までに集合住宅を含め市内全住宅の約10%をベーシックレベル相当とするという2つの目標を設定している。

平成28年度の認定件数は139件、補助件数は128件、平成24～28年度の累計では、同532件、461件となっている。累計認定件数の等級ごとの内訳は、トップランナーが14件、ハイレベルが17件、スタンダードレベルが205件、ベーシックレベルが294件、ミニマムレベルが2件となっている。

補助制度スタート当初はベーシックレベルが多かったが、ワンランク上のスタンダードレベルが増えてきており、「工務店などの技術力向上や、暖房費など光熱費の

札幌市のセミナーをP-STAGE札幌で開催

YKK APは、札幌市政が掲げている温暖化対策を推進するための暖房エネルギー使用量大幅削減、2030年度までに46万トンのCO₂を削減する取り組みを広くプロユザー様の方々に認知していただく活動の一環として、2013年からP-STAGE札幌にて都市局のご担当者様が講師となっておられ、「札幌版次世代住宅補助制度」と「札幌市住宅エコリフォーム補助制度」のセミナーを行ってきました。

昨年からは「札幌市木造住宅耐震化促進事業」、「札幌市危険空家等除却補助制度」と環境局のご担当者様も加わり「札幌・エネルギーecoプロジェクト」を含め、更に充実した内容でセミナーを行っています。



ビル本部 開発営業統括部
本間雅人

削減につながる高断熱・高気密住宅への市民ニーズの高まりを実感している」（札幌市都市局市街地整備部住宅課）と、更なる普及に向けて、登録住宅性能評価機関での審査や住宅金融支援機構との連携を進めている。

新築戸建て住宅の性能向上が進む一方で、集合住宅を含めたストック住宅の性能向上が大きなテーマだ。「新築戸建て住宅のシェアは全体の数%でしかなく、今後は集合住宅や既存住宅の断熱性能向上に取り組む」と、事業の拡充に力を注ぐ考えだ。

このほか札幌市では「札幌市木造住宅耐震化促進事業」や「札幌市危険空家等除去補助制度」など、住宅に対するさまざまな支援策を用意。これら制度をトータルに提供する一方で、さらなる住宅性能の向上に取り組む、パントリーの配布やセミナーなどで周知活動を続けている。



「窓学」10周年記念イベントを開催

エキシビション、シンポジウムで研究発表など

9月28日～10月9日にエキシビション「窓学展—窓から見える世界—」およびシンポジウム「窓学国際会議—窓は文明であり、文化である—」を開催します。

YKK APは、9月28日(木)～10月9日(月)まで、エキシビション「窓学展—窓から見える世界—」およびシンポジウム「窓学国際会議—窓は文明であり、文化である—」を、スパイラル(東京都港区)で開催しま

す。YKK APは、「窓は文明であり、文化である」という思想のもと、2007年から窓を学問として多角的に探究する活動「窓学」を実施、建築、歴史、文化、アート、デザインなどさまざまな視点から「窓」にアプローチしてきました。その意味や役割を見極め、窓の新たな魅力や可能性を提示することで、よりよい建築、都市、社会づくりに貢献することを目指して活動しています。

2013年には「窓研究所」を設立、研究者や建築家とともに窓をアカデミックな視点から調査・研究してきました。これまでに国内外での出版、展覧会や研究会の開催などを通して窓の価値や可能性を発信してきました。

今回のイベントは「窓学」10周年を記念して行うもので、「窓学」の歩みと研究成果をご覧いただくエキシビションおよびシンポジウムです。

エキシビション

開催概要	名称	窓学10周年記念「窓学展—窓から見える世界—」
	入場料	無料
	会場	スパイラルガーデンおよびショウケース(スパイラル1F) 〒107-0062 東京都港区南青山5-6-23 03-3498-1171(代表)
	日時	2017年9月28日(木)～10月9日(月・祝) 11:00-20:00(会期中無休)
	展示ディレクター	五十嵐太郎(東北大学教授/「窓学」総合監修)
	会場構成	西澤徹夫(建築家)
	展示グラフィック	岡本健(グラフィックデザイナー)
	主催	YKK AP株式会社
	ウェブサイト	http://www.madoken.jp/
	トークイベント	2017年9月28日(木)
作品展示	レアンドロ・エルリッヒ(アーティスト)、鎌田友介(アーティスト)、ホンマタカシ(写真家)	
研究展示(50音順)	五十嵐太郎(東北大学教授/建築史・建築批評家)、小玉祐一郎(神戸芸術工科大学名誉教授/エステック計画研究所)、佐藤浩司(国立民族学博物館准教授/建築人類学者)、塚本由晴(東京工業大学教授/アトリエ・ワン)、中谷礼仁(早稲田大学教授/歴史工学家)、原広司(東京大学名誉教授/原広司+アトリエ・ファイ建築研究所)、村松伸(東京大学教授/建築史家)	
トークイベント(9月28日実施)登壇者	原広司(東京大学名誉教授/原広司+アトリエ・ファイ建築研究所)、レアンドロ・エルリッヒ(アーティスト)、五十嵐太郎(東北大学教授/建築史・建築批評家)	

国際シンポジウム

開催概要	名称	窓学10周年記念「窓学国際会議—窓は文明であり、文化である—」
	日時	2017年10月3日(火)9:00～19:00
	会場	スパイラルホール(スパイラル3F)
登壇者(50音順)	伊香賀俊治(慶應義塾大学教授)、五十嵐太郎(東北大学教授)、北山恒(横浜国立大学名誉教授)、久保田徹(広島大学准教授)、小玉祐一郎(神戸芸術工科大学名誉教授)、小林茂雄(東京都市大学教授)、小林博人(慶應義塾大学教授)、佐藤浩司(国立民族学博物館准教授)、清家剛(東京大学准教授)、竹中司(アンズスタジオ)、千葉学(東京大学教授)、塚本由晴(東京工業大学教授)、手塚貴晴(東京都市大学教授)、中谷礼仁(早稲田大学教授)、浜日出夫(慶應義塾大学教授)、イワン・バーン(写真家)、藤森照信(東京大学名誉教授)、ホンマタカシ(写真家)、町村敬志(一橋大学教授)、村松伸(東京大学教授)、ヨコモソマコト(東京芸術大学教授)、ヴィットリオ・マニャーゴ・ランブニャーニ(スイス連邦工科大学名誉教授)	

から見える世界—」は、過去10年間の窓学の研究成果をわかりやすく紹介し、幅広く「窓」を考え、感じることでできる展示を行います。レアンドロ・エルリッヒ、鎌田友介、ホンマタカ

シの3名のアーティストがこの展示のために新たな窓の作品を制作、発表します。

シンポジウム「窓学国際会議—窓は文明であり、文化である—」は、これまでに窓学研究に

参加した多彩な分野の専門家に加え、海外からもユニークなゲストを招聘し、招待講演者約20名による国際的かつ学際的な窓の研究発表を行います。



新たに開設されたYKK AP R&Dセンター(ドイツ)

ドイツにYKK AP R&Dセンターを開設

ドイツのヴッパータール市に「YKK AP R&Dセンター(ドイツ)」を開設しました。グローバルな視点で窓の研究開発を進めていきます。

YKK APは、ドイツに窓の研究開発拠点として「YKK AP R&Dセンター(ドイツ)」を5月11日に開設しました。

ドイツ西部のヴッパータール市にあるYKKグループの「YKK

- ①機能部品および開口部断熱の調査・研究
- ②窓における欧州最先端技術の調査・研究
- ③高付加価値機能部品の開発

機能部品や高性能ガラスなど先進技術を持つドイツで、世界中の方々に提案できる窓をグローバルな視点で研究開発していきます。

5月11日には開所式を行いました。ヴッパータール市のアンドレアス・ムッケ上級市長や、在デュッセルドルフ日本国総領事館の水内総領事などのご来賓や関係者など、約50名に出席いただきました。

開所式の様子



右から YKK AP代表取締役社長 堀秀充、ヴッパータール市 アンドレアス・ムッケ上級市長、YKK AP代表取締役会長CEO 吉田忠裕、在デュッセルドルフ日本国総領事館 水内龍太総領事、YKK AP R&Dセンター(ドイツ) マークス・ハルシャイト



右:ヴッパータール市 アンドレアムス・ムッケ上級市長
左:YKK AP代表取締役会長CEO 吉田忠裕



 ヴッパータール
YKK AP R&Dセンター(ドイツ)

 黒部
YKK AP R&Dセンター
2016年4月開設



エコ改修などの補助制度が追加実施

住宅ストック循環支援事業が延長 第3回募集は9月7日まで

エコリフォームなどに対して補助を行う「住宅ストック循環支援事業」の追加募集が行われる。当初、6月末までであったが、9月7日まで申請を受け付けることになったもの。エコリフォームやエコ住宅の購入を考えるユーザーに積極的に提案したい。

エコリフォームや

良質な既存住宅の購入に補助

「住宅ストック循環支援事業」の追加受付が今年8月から開始される。同事業は、当初6月末までの申請受付で行われていたが、予算の執行状況を踏まえ、第3回募集が追加で行われることになった。

「住宅ストック循環支援事業」は、良質な既存住宅の市場流通を促進し、若者の居住費負担の軽減および既存住宅流通市場の拡大、耐震化率・省エネ適合率の向上など、良質な住宅ストックの形成およびリフォーム市場の拡大を目的に行われている補助金制度。①住宅のエコリフォーム、②良質な既存住宅の購入、③エコ住宅への建替えに対して補助が行われる。

「エコリフォーム」は、①開口部の断熱改修(ガラス交換、内窓設置、外窓交換、ドア交換)、②外壁、屋根・天井又は床の断熱改修(一定量の断熱材を使用)、③設備のエコ改修(エコ住宅設備のうち3種類以上を設置する工事)が対

象。「既存住宅の購入」は、40歳未満の若年層を対象に、インスペクションが実施され、既存住宅売買瑕疵保険がつく住宅の購入に対して補助が出る。「建替え」は、耐震性のない住宅からエコ住宅への建替えが対象だ。

補助額はそれぞれ異なるが、「エコリフォーム」の「開口部の断熱改修」の場合、窓やドアの面積によって補助額が異なり、1カ所当たりの補助額×施工所数の補助を受けることができる(限度額・戸当たり30万円、耐震改修を行った場合は同45万円)。

エコ注文住宅の建替え以外 すべてで実施

この事業は平成29年1月から交付申請の受付を開始、4月末時点の交付申請は、「エコリフォーム」が3万3934戸、「既存住宅の購入」が1174戸、「建替え」が3271戸の計3万8379戸であった。予算は250億円であるが、5月29日時点の実施見込み額は83.3億円、実施見込み率33.3%であり、

住宅ストック循環支援事業
追加受付を実施する申請区分

良質な 既存住宅の購入	[A] 既存住宅の購入 (個人間売買)	追加受付予定
	[B] 既存住宅の購入 (買取再販)	追加受付予定 (事業者登録 したものに限り)
住宅の エコリフォーム	[C] エコリフォーム	追加受付予定
エコ住宅への 建替え	[D] エコ住宅への 建替え (注文)	追加受付なし
	[E] エコ住宅への 建替え (分譲)	追加受付予定 (事業者登録 したものに限り)

第3回の募集を行うことになった。

第3回の受付期間は、平成29年8月1日～9月7日まで(郵送・必着)。追加で受付を行う申請区分は表の通りで、「エコ住宅への建替え・注文住宅」を除き、すべてで追加受付を行う。

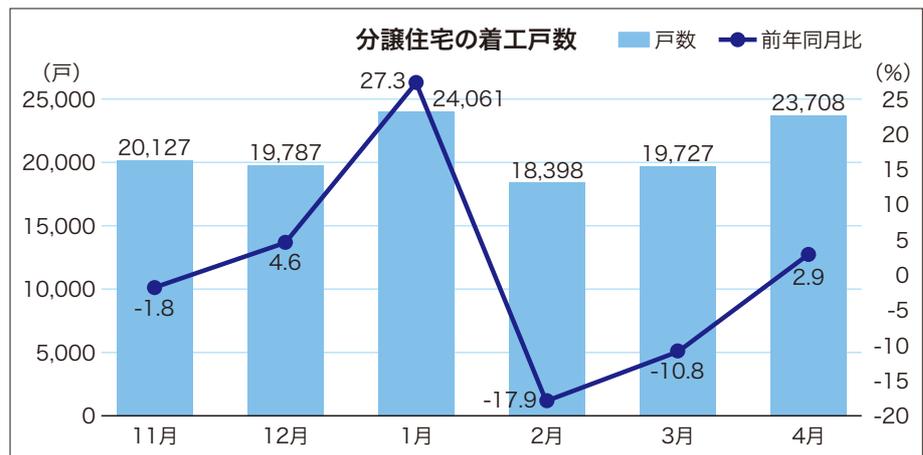
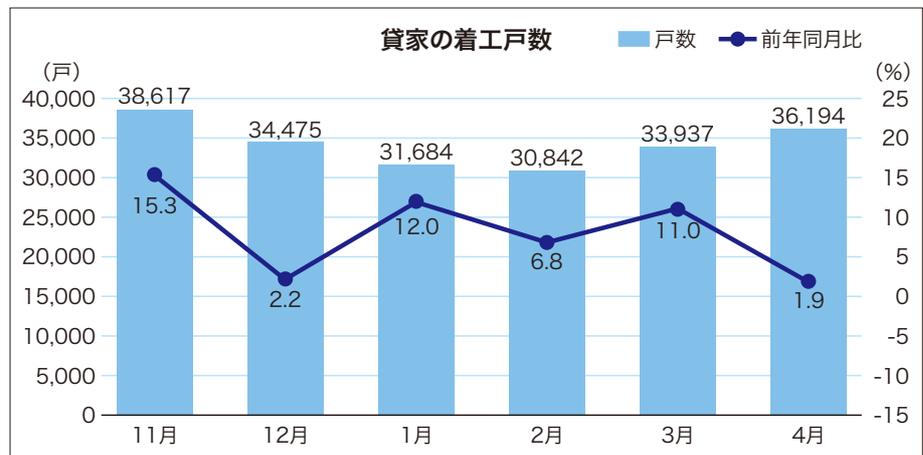
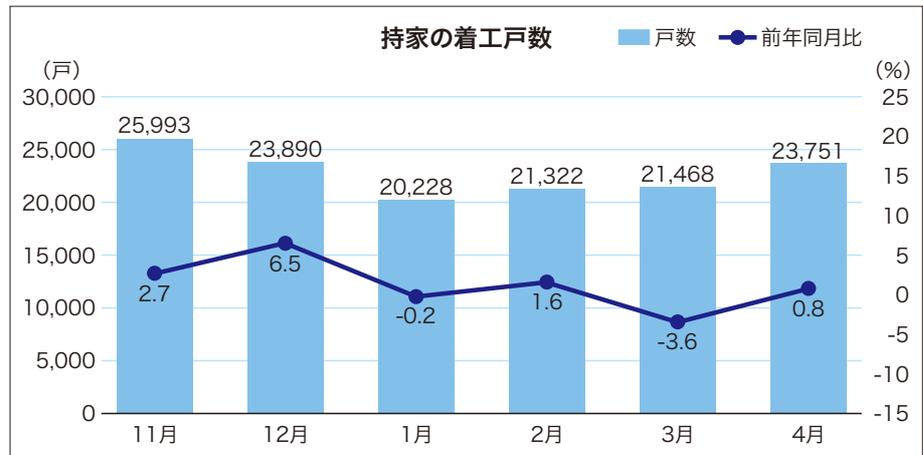
制度の詳細は2017年1月号参照

4月の住宅着工は、前年同月比1.9%増

持家、貸家、分譲のすべてで増加

総戸数	持家	貸家	分譲住宅	一戸建 (分譲)	マンション (分譲)
83,979戸	23,751戸	36,194戸	23,708戸	11,504戸	12,097戸
前年同月比 1.9%増 2カ月連続の増加	前年同月比 0.8%増 2カ月ぶりの増加	前年同月比 1.9%増 18カ月連続の増加	前年同月比 2.9%増 3カ月ぶりの増加	前年同月比 5.2%増 18カ月連続の増加	前年同月比 1.3%増 3カ月ぶりの増加

	着工戸数	
	4月分	前年同月比
全 国	83,979	1.9
北 海 道	4,341	21.7
青 森	636	△2.5
岩 手	699	20.3
宮 城	1,975	16.6
秋 田	344	△12.2
山 形	566	26.6
福 島	1,465	△21.4
茨 城	1,540	△11.2
栃 木	1,165	9.9
群 馬	1,175	△2.9
埼 玉	5,135	4.5
千 葉	6,078	44.5
東 京	11,685	△12.1
神 奈 川	7,322	△0.7
新 潟	1,036	△2.9
富 山	438	△14.3
石 川	591	△19.4
福 井	263	△21.0
山 梨	362	54.0
長 野	920	△10.9
岐 阜	942	△13.1
静 岡	1,883	△10.2
愛 知	4,896	11.3
三 重	856	3.8
滋 賀	829	17.9
京 都	1,255	△28.7
大 阪	5,643	△13.4
兵 庫	2,976	△1.4
奈 良	652	△4.5
和 歌 山	457	22.8
鳥 取	267	36.9
島 根	266	1.1
岡 山	1,011	△8.0
広 島	1,821	20.3
山 口	786	68.3
徳 島	357	△6.3
香 川	713	18.6
愛 媛	893	90.4
高 知	351	52.6
福 岡	3,606	3.9
佐 賀	332	9.2
長 崎	396	△36.0
熊 本	1,455	45.6
大 分	585	36.7
宮 崎	694	△2.0
鹿 児 島	793	△10.2
沖 縄	1,528	8.4



YKK AP ショールームのご案内

商品は最寄りのショールームでご覧いただけます。

※ショールームに展示されている商品は厳選されています。ご覧になりたい商品が展示されているかを事前にご確認ください。



SHOW ROOM



2017年7月末オープン

ショールーム札幌

〒060-0033
札幌市中央区北3条東4丁目1-10
TEL.0120-4134-55

ショールーム新宿

〒151-0053
渋谷区代々木2-1-5
JPN南新宿ビル8F
TEL.0120-32-4134

ショールーム横浜

〒220-8134
横浜西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー34階
TEL.0120-47-4134

ショールーム新潟

〒950-0914
新潟市中央区紫竹山5丁目1番11号
TEL.0120-78-1134

ショールーム金沢

〒920-8201
金沢市鞍月東2丁目11番地
TEL.0120-79-4134

ショールーム静岡

〒422-8006
静岡市駿河区曲金7-1-6
TEL.0120-75-0202

ショールーム名古屋

〒450-6413
名古屋市中村区名駅3丁目28-12
大名古屋ビルヂング13F
TEL.0120-52-4134

ショールーム大阪

〒530-0017
大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビル
オフィスタワー20F(阪急百貨店のビル)
TEL.0120-62-4134

ショールーム広島

〒734-0014
広島市南区宇品西4-1-36
TEL.0120-64-4134

ショールーム高松

〒761-0301
高松市林町2547-3
TEL.0120-88-4134

ショールーム福岡

〒812-0018
福岡市博多区住吉1-2-25
キャナルシティビジネスセンタービル3F
TEL.0120-71-4134

ショールーム熊本

〒860-0832
熊本中央区萩原町17番地53号
TEL.0120-83-1134



・札幌、新宿、金沢、名古屋、大阪、広島、高松、福岡は
TOTO-DAIKEN-YKK AP コラボレーション ショールームです。
・横浜、新潟、静岡、熊本は
TOTO-YKK AP コラボレーション ショールームです。

営業のご案内(全館共通)

開館時間: 10:00~17:00

休館日: 毎週水曜日(体感ショールームは毎週日曜日)
(ただし、祝日の場合は開館)。
夏期休館日・年末年始休館日あり。
休館日、開館時間につきましては、事前にご確認ください。

詳しくは
ホームページで



ビジネスのお客様向けショールームのご案内

上記ショールーム以外にも建築関係者様向けの体感ショールームや
中小規模の展示場がございます。

体感ショールーム

〒108-0075 東京都港区港南2-15-4 品川インターシティホール棟地下1階
各地の展示場 [詳しくはホームページでご確認ください。]
仙台、長岡、長野、富山、福井、岐阜、沼津、浜松、愛媛、那覇

販売店・建築会社・工務店様へのご願い

【商品選択上のご願い】

●商品は、使用用途・使用場所などを限定しているもの、専門施工が必要となるものがあります。商品仕様をご確認のうえ、商品を選定してください。

【組立・施工上のご願い】

●商品の組立・施工については、必ず説明書に従ってください。

【お施様引渡し時のご願い】

●商品の取扱説明書(使い方&お手入れガイドブック)をご用意しています。
必ず、お施様や建築物を管理されている方にお渡しください。



YKK AP株式会社

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1
http://www.ykkap.co.jp/

2017年6月26日発行 Printed in Japan

商品に関するご相談、お問い合わせは

■一般のお客様 ☎ 0120-20-4134

■建築・設計関係者様 ☎ 0120-72-4134

受付時間 月~土 9:00~17:00
(日・祝日・年末年始・夏期休暇等を除く)

●お問い合わせ、ご用命は……

メディアレポートを送付させていただいている皆様からお預かりした個人情報は、その利用をメディアレポートの配布に限定した上で、万全の管理を行っております。送付の中止や宛先等の変更がございましたら、左記宛てにご連絡ください。
http://www.ykkap.co.jp/privacy/index.aspもご覧ください。

※本紙上で使用する「APW」「エクスティアラ」「ピタットKey」「スマートドア」「シャローネ」「ヴェナート」は、YKK AP株式会社の出願・登録商標です。